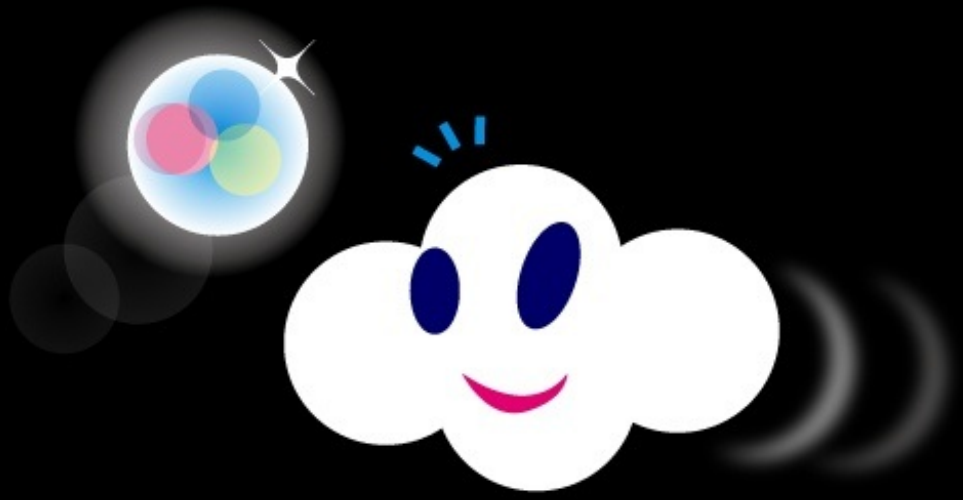
雲くんとシャボン玉

ジッピー・チッパー

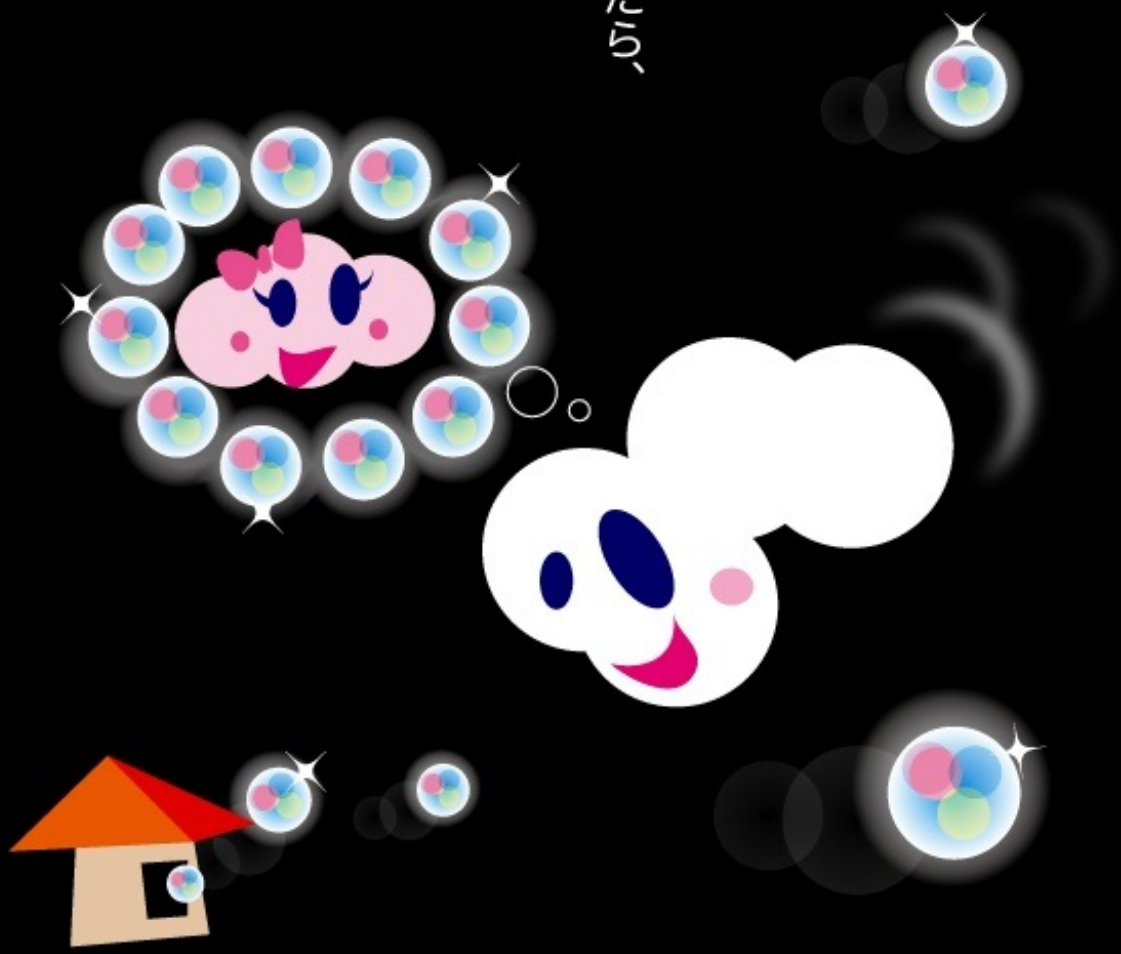
ふわふわ　ふわふわ
おさんぽ雲くん。

きれいなシャボン玉
見つけたよ。



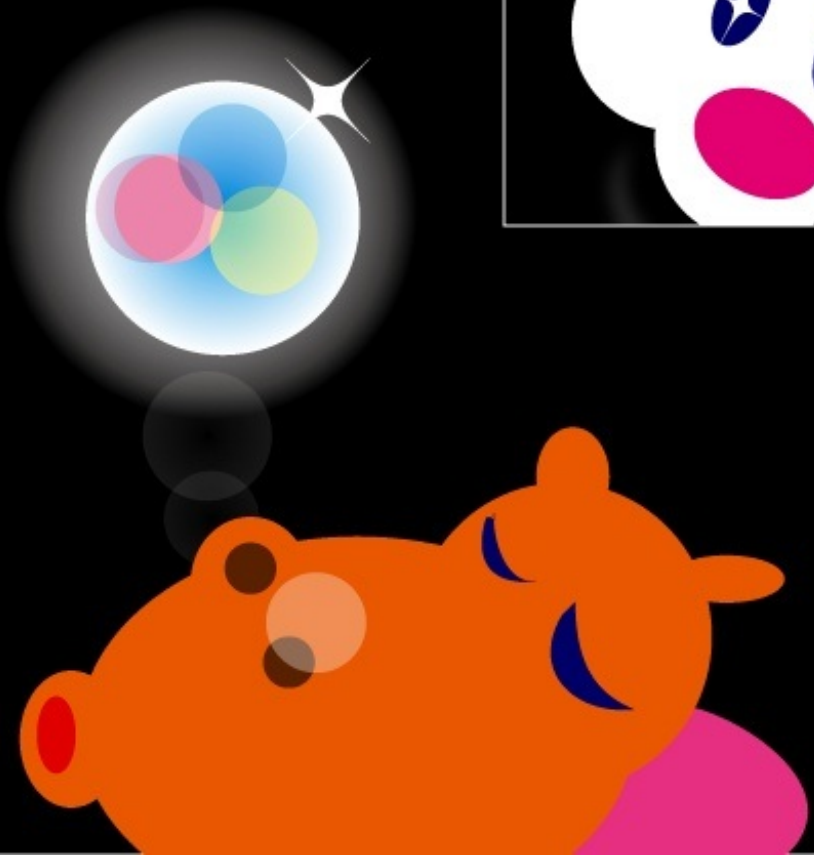
「うわぁ、きれいだなぁー。
こんなきれいなシャボン玉を
いっぱい集めて
くも子ちゃんにプレゼントしたら、
きっとよろこぶだろうな〜」

ふわふわ雲くん、
シャボン玉の来たほうに
行ってみたよ。



「わ！」
雲くん、びっくり！

きれいなシャボン玉は、
カバくんの鼻の穴から
出てました。



お昼寝カバくんの鼻の穴に
いたずら猫くんが何か入れてるよ。

シャンプー、ハチミツ、
オレンジジュース！
だからこんなにきれいなのか！

いたずら猫くん　笑いをこらえて
いたずらをつづけます。

それでもカバくんは平気な顔で
スヤスヤお昼寝　夢の中。

あそびつかれたいたずら猫くん、
カバくんのお腹の上でねむっちゃった。

でもカバくんの鼻の穴からは
きれいなチャボん玉が止まりません。

雲くんは思ったよ。

カバくんが眠っているうちに、
こっそり雲の国にはこんでいって、
シャボン玉いっぱいもらっちゃおう！

雲くんはお友達を呼んできて、
そおっとそおっとカバくんを
持ち上げてみました。

だけどやっぱり重すぎて
ぜんぜんびくとも持ち上がらないや。

またまた雲くんは思ったよ。

魔法使いのチョウチョさんに
たのんでみよう！

「そんなのおやすいごようさ！」
魔法使いのチョウチョさん、
魔法のコナを
パラパラキラキラ
まきました。

すると、
カバくんのからだが
ふわっと
風船みたいに軽くなり、
雲くんたちでもか〜るがる
運べるようになっちゃった！

「ありがとう！　チョウチョさん。」

さっそく雲くん、窓からカバくんを
そーっとそーっとはこびだしました。

そのとき！
カバくんのペットのトリピッピが
さわぎだしました。

トリピッピったら、
チョウチョが大好物だったんだよ！

早くお部屋から出さないと
トリピッピの鳴き声で
カバくん、目をさましちゃう〜

「おい！　トリピッピ！
おまえになんかに食べられるような
オレさまじゃないのだよ。」

そういって魔法使いのチョウチョさんも
窓から外へヒラヒラと出て行きました。

一人お部屋にのこされたトリピッピ、
大事なことに気がついちゃった。

「カバくんがお昼寝していたせいで
今日のエサをもらってないじゃないか！」

そう思うほど　トリピッピ、
さっきよりよけいにお腹がへってきちゃって
カゴの中で大あばれ！

「あ～エサが食べたい！
あ～チョウチョが食べたい！」

ふわふわ雲くん、
お昼寝カバくん、
スヤスヤ猫くん、
ひらひらチョウチョさん、

きれいなシャボン玉
いっぱいとばしながら
ゆっくりお空へのぼってく。

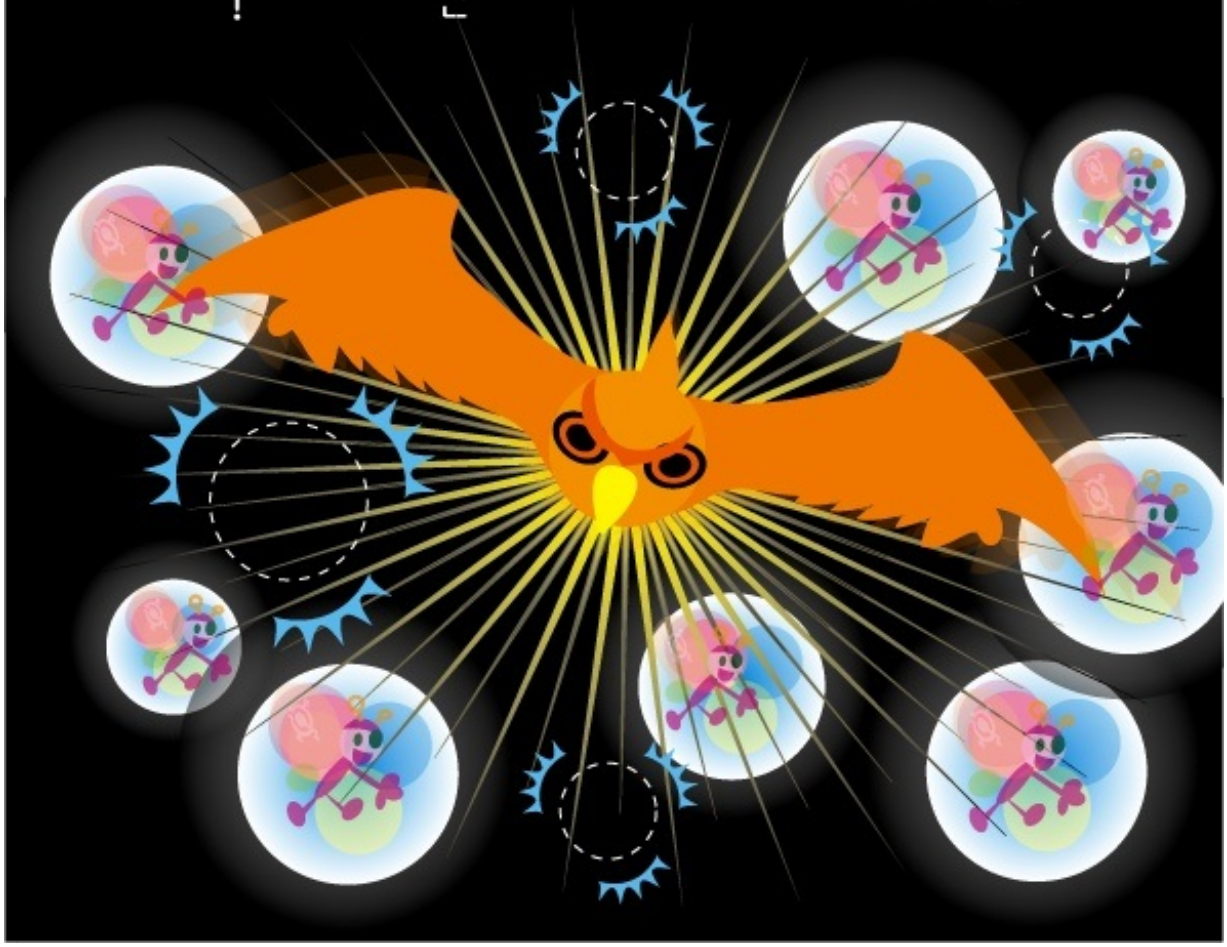
もうすぐ雲の国ですよ。

カバくん、僕のお部屋の中を
きれいなシャボン玉でいっぱいにしてね！

そのとき、ものすごいスピードで、
うしろから何かが飛んできました。

お腹をすかせたトリピッピです！
あばれてかごをひっくり返して
チョウチョめがけてまっしぐら！

「あ！　チョウチョがいっぱいだ！」
いっぱいのシャボン玉にうつった
チョウチョさんのすがたを見て、
はらぺこトリピッピがつっこんだ！



パンパンパアン！

いっぱいのシャボン玉が
いっぺんにはじけちゃったせいで
いたずら猫くん　おきちゃった！

「ニャー！　ここはどこなの？
お空の上なの？　ぎゃーこわい！」

あわてた猫くん飛び上がって
お空の上からまっさかさま！

「タ～ス～ケ～テェ～
ニャ～～～」

でも大丈夫！
魔法使いのチョウチョさん、
魔法のコナを
パラパラキラキラ……

すると猫くん、
ボールみたいにまんまるになって、
ボヨンボヨンと屋根にはずんで
どこかにとんでっちゃた。

パンパンパアン！

トリピッピの大あばれは
まだ止まりません！

カバくんも起きちゃったら大変だ。

魔法でボールに変えても
猫くんみたいに軽くないから、
落ちたらお家がつぶれちゃう！

雲くんはさけんだよ。

「チョウチョさん、おねがい！
カバくんを起きないうちに
お家にもどしてあげて」

魔法使いのチョウチョさん、
オーケーとばかりに
魔法のコナをチカラいっぱい
ふりまいた！

パラパラ　キラキラ
サラサラ　ピカピカ

お昼寝カバくん、
ベッドの上で目をさましたよ。

「ふわぁ〜、楽しい夢だったなぁ〜」

窓からお空を見上げると、
きれいな雲が見えました。

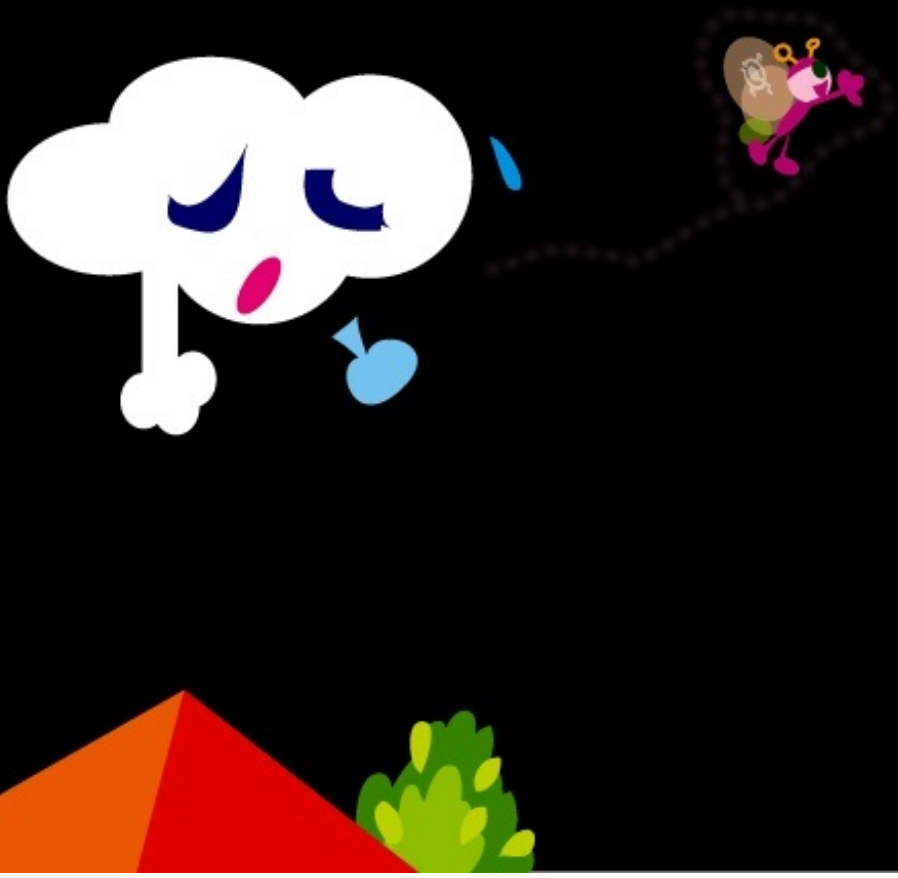
トリピッピもかごの中。
エサも山もりはいっています。

「あれ？　誰かエサあげてくれたのかな？」

もちろん、
魔法使いのチョウチョさんです。
自分が食べられないように、
食べても食べてもへらない
魔法のエサを
山もり入れておいたのです。

お空では雲くん、
しょんぼりです。

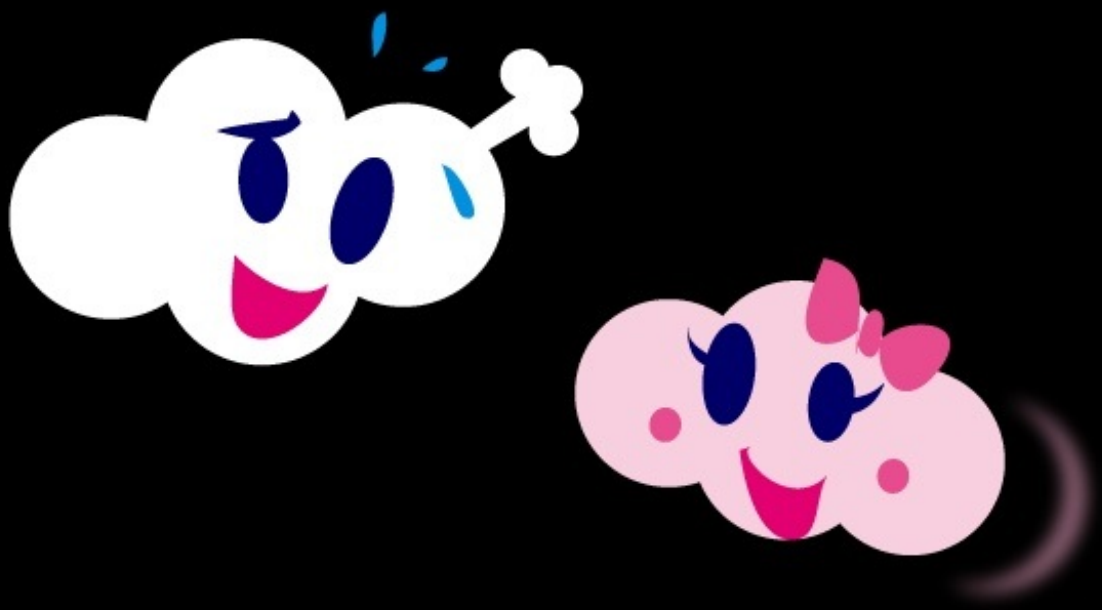
「あーあ、もうちょっとだったのになぁ〜
トリピッピのやつ、おぼえとけよ〜」



すると、むこうの空から
くも子ちゃんがやってきました。

「ねーねー、雲くん、見てたわよ。
すてきなお空だったね！」

「え！　見ていてくれたの？
よかったー。
シャボン玉もきれいだったでしょ？」



「うん、きれいだったよ。……でもあれ、
カバくんの鼻ちょうちんでしょー？
ちかよってきたら わたし、
ぜったい にげちゃうなー。
きゃはははは」

雲くんもあわてて はははは。

雲くんは思ったよ。

「ヒャ～、あぶなかったぁ～。
もしあのシャボン玉をプレゼントしてたら、
ぜったい くも子ちゃんに きらわれてたよ～。
トリピッピさま、ありがと～～～」とね。

おしまい。

「……ちょっとぉ〜」